

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

1. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

デイリー・ジーザス・ニュース #109

2. 洗礼者ヨハネの死

マルコ6.14-29（並行テキスト：マタイ 14.1-12; ルカ9.7-9）

（14）ヘロデ[㊦]は、イエスの三回目の巡回で起こった出来事について聞きました。イエスの名が広く知られるようになっていたからです。Lそして彼は非常に困惑しました、M何人かはこう言っていました。「洗礼者ヨハネは死から蘇り、生きている。だから、彼には奇跡的な力が働いているのだ。」

（15）ほかの人たちは、「彼はエリヤだ」と言った。また他の者たちはこう主張した。「彼は昔の預言者のような預言者だ。」

（16）ヘロデはこれを聞いて、「私が首を切ったヨハネが、死人の中からよみがえったのだ」と言った。（17）というのは、ヘロデ自身がヨハネを捕らえ、縛って牢に入れようと命じていたからである。これは、ヘロデが自分の兄弟フィリポの妻ヘロディアをめとっていたためであった。（18）ヨハネは、ヘロデに言った、「あなたの兄弟の妻をめとることは律法で許されていない。」

（19）ヘロデヤはヨハネを恨み、彼を殺したいと願い続けましたが、できませんでした。（20）ヘロデはヨハネを恐れ、彼を保護していました。ヨハネは正しい聖なる人であることを知っていたからです。ヘロデはヨハネを殺すつもりでしたが、群衆のせいでそうすることができなかったのです。彼らはヨハネを預言者だと信じていたからです。ヘロデはヨハネの話を聞くたびに非常に当惑しましたが、それでも彼の話を聞くのが大好きでした。

（21）ついに好機が訪れた。ヘロデは誕生日に高官や軍司令官、ガリラヤの有力者たちを招いて宴会を催した。（22）ヘロディアが入って来て踊り、ヘロデ王と晚餐の客たちを大いに喜ばせました。

王様は娘に言いました。「欲しいものは何でも言いなさい。与えてあげよう。」

（23）そして彼は彼女に誓って約束した。「あなたの求めるものは何でも、私の王国の半分までも与えよう。」

（24）彼女は出て行って、母に言った。「何をお願いしたらよいでしょうか。」

「洗礼者ヨハネの首です」と彼女は答えた。

（25）すると、少女はすぐに王のところへ駆け寄り、こう願いました。「今すぐ、洗礼者ヨハネの首を盆に載せて私に下さるようお願いします。」

（26）王は非常に困惑したが、誓いを立てたことと、晚餐の客たちのことを考えると、彼女を拒むことはできなかった。（27）そこで、王はすぐに死刑執行人を遣わし、ヨハネの首を持って来るように命じた。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

その人は行って、牢の中でヨハネの首を切り落とし、(28)その首を盆に載せて持ち帰り、それを娘に与えたので、娘はそれを母親に渡した。

(29)これを聞いたヨハネの弟子たちは来て、彼の遺体を引き取り、墓に納めた。^{MT}そして彼らは行ってイエスに告げた。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています**。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	マカエラス
タイムライン	3月下旬(26ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波
タイトル	2. 洗礼者ヨハネの死

コメント：

前の朗読で述べたように、福音書はイエスの3度目、そして最後のガリラヤ巡回における約6か月間の宣教活動について詳細を記していません。しかし、この巡回伝道の最後となった5つの出来事については、非常に詳細に記されています。それは以下の通りです。

- (1) 洗礼者ヨハネの死
- (2) イエスと十二使徒が報告と休息のためにガリラヤ湖の東側へ退いたこと
- (3) 5000人の食事
- (4) 別の夜の嵐の中、ガリラヤ湖の水面を歩くイエス
- (5) カペナウムの会堂におけるイエスの「命のパン」の説教

洗礼者ヨハネの斬首は、第三巡回の旅の終わりに起こった重大な出来事であり、イエスが十二使徒を再び集めるきっかけとなりました。真の預言者であったヨハネの死は、パレスチナ全土に衝撃を与えました。イエス自身も深い衝撃を受けたに違いありません。地上における最も強力な支えを失ったイエスは、ヨハネの殉教を通して、自らの死を思い起こさずにはいられなかったからです。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

Ⅰ. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

ここで言及されている「ヘロデ王」とは、イエス誕生の32年前に統治していたヘロデ王の4人の息子の一人であることに注目すべきです。歴史家たちは、彼らの父を「ヘロデ大王」と呼んでいます。なぜなら、彼は強力な政治家であり、抜け目のない統治者だったからです。父の死後、その領土を分割した4人の息子たちは皆、はるかに卑しい人物であり、イエスと関わりがあったヘロデ・アンティパスを除けば、歴史にはほとんど影響を与えませんでした。

福音書記者が洗礼者の殉教をこれほど詳しく記した理由はいくつかある。第一に、それはイエス自身に何が起こるかを暗示していた。ユダヤの歴史上、多くの預言者は同輩によって殉教した。そして400年後、イスラエルで再び現れた、誰もが認める預言者もまた殺された。ヨハネに起こった出来事から判断すると、預言者以上の存在であったイエスが殉教する可能性は十分にあったと言える。

したがって、ヨハネの死は、物語におけるイエスの死を予感させるものである。ヨハネの安っぽくて恥ずべき死は、イエスの死という、はるかに大きな茶番劇を予感させるものでもある。

この記述はヘロデの偽善と罪深さを如実に物語っています。彼は非常に虚栄心の強い男で、ヨハネを預言者とみなしていた群衆の意見を恐れて、ヨハネを殺すことを恐れしました。ヘロデの虚栄心は、ある若い女性が彼のために官能的な踊りを披露したという理由で、彼に愚かな約束をさせました。彼はその約束を破ることを恐れしました。なぜなら、その地域の有力者たちがその約束を聞いており、彼らの目に自分を卑下することはできなかったからです。ヘロデが約束を守ったのは、人々が何と言うかを恐れたからです。虚栄心とはまさにこのことです。

しかし、ヘロデの兄弟と結婚していたヘロデヤとの結婚を非難する聖書をヨハネが突きつけた時、パウロは神への畏れを全く持たず、ヘロデヤを妻として留めることで、自らの不服従を公然と誇示した。まさに虚栄心だ。

ヘロデは道徳的に破綻し、神ではなく人々を喜ばせようとし、あらゆる誤った理由で約束を守る偽善者でした。そのような人物が、神の忠実な預言者、洗礼者ヨハネの死の原因となったのです。このヘロデこそが、1年後のイエスの裁判と死にも関与していたという事実こそが、このすべてに意味を与えているのです。洗礼者ヨハネの斬首が不当で道徳的に非難されるべきものであったならば、罪のない神の子羊の死はどれほど不当なものだったでしょうか。

こうして、ヘロデ王と結託してイエスを殺害したユダヤ教とローマの指導者たちは皆、ヘロデと同じ道徳的性格と判断力を持っていたことが示されました。彼らは皆、ヘロデ王と同じように、悪の君主に感化されて悪人となったのです。

応用：

洗礼者ヨハネの死、そして最終的にはイエスご自身の死という状況が、邪悪で忌まわしいものであったにもかかわらず、神はすべてを支配し、悪を用いてご自身の完全な善なる救いの目的を成し遂げられました。イエスの死において神が「万物を働かせて益とされた」ように、私たちの人生においても神が同じことをしてくださると確信できます。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

神は、反抗的で罪深く墮落した世界にもかかわらず、ご自身の善なる完全な御心を成し遂げられます。私たちも殉教したり、神への愛ゆえに喪失を経験したりしたとしても、私たちはこの神を信じ、仕える主権者です。これは、マタイ10章の訓練でイエスが使徒たちに教えられた教訓です。

神への愛ゆえに不当な苦しみを受けたのはいつが最後ですか。

神は、喜んで耐え忍ぶことができるように、あなたを恵みで満たしてくださったのではないですか。

次の犠牲への準備はできていますか？準備をさらに深めるために、どのようなステップを踏む必要がありますか？